

# サイラムザ・アブラキサン Weekly 療法

FN:(-) 催吐性:軽

診断名:進行再発胃癌〔条件つき〕

## ○投与スケジュール(1 コース 28 日間)

Day1,8,15(点滴):アブラキサン div 100mg/m<sup>2</sup>

30分で点滴静注。血漿分画製剤の同意書をとること。

(アルブミン懸濁型パクリタキセル製剤、特定生物由来製剤)

Day1,15(点滴):サイラムザ(ラムシルマブ) div 8mg/kg

## ○注意事項

- ・アブラキサンは添加物としてヒト血液由来成分を含有しているため、感染症の伝播を防止するために安全対策が講じられているが、ヒト血漿を原料としていることに由来する感染症伝播のリスクを完全に排除することができない。**初回投与前に血漿分画製剤の同意書をとること。**
- ・アブラキサン投与時にはインラインフィルターを使用しないこと。(アルブミン製剤のため)
- ・泡立ちに注意すること。(必要量が投与できなくなるため)

## ○投与基準・減量基準

	アブラキサン投与基準
好中球数	Day1: 1,500 $\geq$ /mm <sup>3</sup> Day8,15: 1,000 $\geq$ /mm <sup>3</sup>
血小板数	Day1: 100,000 $\geq$ /mm <sup>3</sup> Day8,15: 75,000 $\geq$ /mm <sup>3</sup>
AST/ALT	$\leq$ ULN $\times$ 3倍
総ビリルビン値	$\leq$ ULN $\times$ 1.5倍
クレアチニン値	Day1: $\leq$ ULN $\times$ 1.5倍
末梢性感覚ニューロパチー	$\leq$ Grade2

	アブラキサン減量の目安	次回投与時
好中球数	$<$ 500/mm <sup>3</sup>	1段階減量
血小板数	$<$ 25000/mm <sup>3</sup>	1段階減量
FN	$\geq$ Grade3	1段階減量
末梢性感覚ニューロパチー	$\geq$ Grade3	1段階減量
その他	医師が同一用量で投与継続が困難と判断	1段階減量

	サイラムザ投与基準
尿蛋白	≤ 1+(2+以上の場合、定量検査で2g未満であれば投与可とする)
サイラムザに起因する副作用	Grade1以下またはベースラインまで回復している (高血圧、静脈血栓塞栓症イベント、尿蛋白を除く)

投与速度の変更	Grade1・2 の Infusion reaction 発現
投与中断	手術を予定している患者
	創傷治癒障害による合併症の発現(創傷が治癒するまで中止)
	1日蛋白尿2g以上3g未満の発現(1日2g未満になるまで休薬、再開の場合は減量)
	症候性の Grade2・3 以上の高血圧の発現(降圧剤による治療を行い、血圧がコントロールできるまで休薬)
投与中止	静脈血栓症の発現
	Grade3・4 の Infusion reaction 発現
	消化管穿孔の発現
	Grade3・4 の出血の発現
	うっ血性心不全の発現
	瘻孔の発現
	可逆性後白質脳症症候群の発現
	1日3g以上の尿蛋白、またはネフローゼ症候群の発現
	間質性肺疾患の発現
	降圧剤による治療を行ってもコントロールできない症候性の Grade2・3 の高血圧の発現